

2014年6月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

➤景気判断は据え置きました。

—前月の「着実に持ち直している」との判断を継続。

■項目別の変化点

➤住宅投資の判断を修正しました。

項目	6月	5月
住宅投資	一進一退となっている	弱めに転じ始めている

■今月の注目点：「消費税率引き上げの道北経済に与えた影響」の再点検

- 消費税率引き上げについて、これまで「道北経済への影響は限定的」と判断してまいりましたが、今月も、以下の理由から、これまでの判断を維持してよいと判断しました。
- 最大の需要項目は「個人消費」ですが、その柱である小売販売額の動向をみますと、殆どの大型小売店では、「売上げの谷の深さ」（需要の反動減の大きさ）が、徐々に浅くなってきています（なお、中古車販売等、回復感が出にくいものも一部にみられます）。

——現時点では、直近の5、6月分の大型小売販売額や新車登録台数の確定データが入手できず、感触ベースでしか確認が取れませんが、4月に大きな谷（需要の反動減）が出来た後、5月、6月と時間が経過するに従い、徐々に谷が浅くなってきている先が多数を占めます。

——6月下旬現在では、売上高の前年比はなおマイナスの先（谷の状態）が殆どですが、「夏場には水面上に顔を出せる（前年比プラスに転じる）」との見通しを持つ先も少なからず出始めています。

- また、消費税率引き上げ直前の「山（2～3月分）」と、直後の「谷（4～6月分）」を均して、前年同月と比較すれば「概ね前年並み」あるいは一部の先では「プラスになる」との見方は、引続き維持されています。

- 観光については、道北地域では個人消費の一大項目ですが、アジアからの観光客に支えられ、堅調な旅行需要が続いています。今年の夏は、昨年を上回る状況が期待できるとの声も聞かれます。

——アジア各地で「北海道ブーム」「日本食ブーム」が続いており、北海道人気には引続き根強いものがあり、旭川空港や新千歳空港への直行便も少しずつ増えてきています。

——アジア観光客の訪日増加を背景に、夏場の宿泊予約が好調に入っているほか、貸切バスなどへの需要もしっかり伸びています。

- こうした点を踏まえると、道北経済の個人消費については、小売販売を中心に、一時的な山谷を経つつも、これまで続いてきた大きな方向感——すなわち「持ち直しに向けた動きが広がりつつある」という“基調”に、再び復していくとみてよいと思われれます。

- 上記以外の産業についても、消費税率引き上げを契機に、一時的な需要動向の振れが、大なり小なり見られたものの、企業マインドや先行きの景気見通しに大きな変化をもたらしている状況にはありません。

- なお、新規住宅着工については、足元は、やや方向感が出にくい状況となっています。

——持家や分譲については、消費税率引き上げに伴う「駆け込み需要」と「反動減」から、弱めに転じています。一方、貸家については、従来から月による振れが大きいのが特徴ですが、今月は2か月連続で増加しました。結果的に、全体を括れば「増加」となったことから、住宅全体の基調的な方向性としては「一進一退」と評価しました。

以 上